[http://www.appstorechronicle.com/2013/11/exclusive-peter-thiel-bitcoin.html#ixzz2kgFezCi3](http://www.appstorechronicle.com/2013/11/exclusive-peter-thiel-bitcoin.html)

# 独占記事：ピーター・シエルによるビットコイン考察

先週末のとある会議にて、ペイパルの創立者であり著名なベンチャーキャピタリストでもあるピーター・シエルがビットコインのリスクと社会に与える影響について触れました。デジタル通貨は未来に向けて限りなく発展を続けていると考えている私にとって、彼のコメントは非常に興味深いものであり、このブログに是非掲載したいと考え、聞き取ってきました。以下、彼のビットコイン考察を書き起こした内容です。

## ピーター・シエルがビットコインについて考えていること

「ペイパルの初期バージョンは非常に革新的だった。私が1999年の11月に講演した際、話題はスマートフォンの暗号化強化、国家による貨幣主導の終了、さらに暗号化を施した通貨による世界変革だった。ビットコインは、そこで話した内容を実現する可能性を持った最初のツールの一つだと考えているよ。

**でも、ビットコインを全く法律の影響を受けずに運営できるかというと、そこは注意深く検討しないと分からないのではないか、というのが私の意見だ。**私たち自身もよく理解しているように、金銭は非常に不可解で、かつ重要な役割を持っている。私がペイパルを運営していた時期に、小道具をよく使っていた。誰かに説明を行う最中に、100ドル札を取り出して目の前にかざしてみるんだ。てきめんに催眠効果が現れるので、いつも面白かった。聞き手はすぐに静かになり、注意を払うようになるんだ。どうしてそんな効果が得られるのか、が肝心な点だ。まず、（金銭は）あまりクリーンなモノだとは言えない。多くの人たちの手を渡っているからね。でも、他の人々が欲しがっているから自分も欲しくなる、という相乗効果を持っているのは確かだ。金銭とは永遠に消えることのないあぶくのようなものかもしれない。そこで、ビットコインが新しい通貨として認められるかどうかの疑問に戻ってみよう。ビットコイン懐疑派の意見：「まがいものだ」「バブルにすぎない」「何も実体がない」は、よく考えてみると、これ（アメリカドル札）について私達が口にする意見とよく似ているのではないか。だから、金銭とは永久に生まれ続けるあぶくだと、捉えて考えてみる価値はあると思う。ビットコインが新しい通貨として普及する可能性は確かに存在するよ。

**それでも、注意しなければいけない点がある。** 私が知る限りにおいては、ビットコインは投機と非合法活動に使用されている。違法な支払に使われているおかげで、長い間にわたってますます詳細に詮索され続けるかもしれない。

**ペイパルを通じて、e-goldという会社と知り合う機会を得たことがある。**黄金の認証をいわば匿名で行い、世界中で取引できるようにする、というものだ。ペイパルにおいて、私達は2000年3月にe-goldのペイパル利用を許可した。で、3ヵ月後にペイパルでの利用を禁止した。e-goldは主に、盗難クレジットカードを発見するために使われていた。盗まれたクレジットカードの持ち主にカード発見の報酬を請求し、匿名の金認証を通じてその報酬を資金洗浄していたのが判明したんだ。

私は2001年4月に、ワイヤード誌の取材の際にe-goldについて聞かれ、信用できない会社だ、と答えている。e-goldの連中はすぐに私を名誉毀損で訴えたがね（聴衆の爆笑）。2001年10月に、和解したよ。会社を訴えられたときに、絶対にやっていけないことは交渉に応じることだ。原告側の弁護士はテロリストのようなもので、テロリストとは絶対に交渉しないだろう？特別なケースを除いて。そういうわけで、彼らとは2002年の春に一応和解したよ。まだ後日談があって、2008年頃にFBIが動き出して彼らを全員逮捕し、刑務所に入れたよ。

**そういうわけで、ビットコインのようなものについては非常に複雑な政治的状況が関わる、と考えているんだ。** つまり、現時点で閉鎖されていないからといって、優秀な政府は非合法活動には非常に素早く反応するはずだから大丈夫だ、と考えていいのだろうか？ということだ。この国にはそんな政府は存在しない。だから、この先の将来において閉鎖は起こらない、と信じられる根拠は何もない。だからこそ、私は疑問を呈しているわけだが、同時に（ビットコインは）非常に興味深いとも感じているよ。